眠れるゆるキャラに光を！

一元管理へ　団体が始動

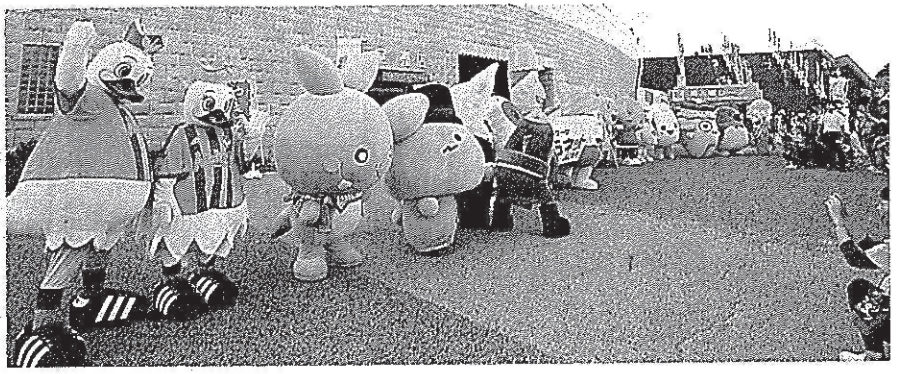
ご当地キャラクターブームで県内でも続々誕生した「ゆるキャラ」。だが、せっかく作ったのに人気が出ず、「お荷物」と化してしまうキャラクターもいる。そんなゆるキャラたちの「救済」に向け、県内のゆるキャラをマネジメントする団体が今月始動した。著作権管理や効果的な出演方法を探り、本来の目的である地域おこしの旗手として、眠るゆるキャラの復権を図る。

【米江貴史】

11日に新潟市内で開かれたサッカーJ1・アルビレックス新潟の第2ステージ開幕戦。2011年ゆるキャラグランプリ10位の「レルヒさん」や佐渡の「ブリカツくん」、糸魚川の「ブラック番長」など県内の20キャラクターが一堂に会してサポーターを出迎え、ハーフタイムには場内をパレードした。

企画したのは新潟市江南区の「エヌキャラネット」（佐々木謙一代表）。単独活動が多かったキャラクター同士につながりを持たせて「オール新潟」を演出した。同団体の倉元峰明プランナーは「あくまでも手始め。マネジャー的な立場で依頼者のニーズに応え、キャラクターの個性を引き出したい」と意欲を見せる。

地域振興や販売促進の期待を背負って続々と誕生したゆるキャラは、県内に100種類以上いるという。レルヒさんのように県外にファンを持つキャラクターもいるが、大半は地元イベントに出ていれば良い方で、事実上「休眠中」のゆるキャラもいる。



J1新潟の第2ステージ開幕戦でサポーターを出迎えるご当地キャラクターたち＝新潟市中央区で

レルヒさんなどの制作に携わってきた倉元さんらは、3年ほど前から実態調査を開始。ゆるキャラの存在感が薄くなっている自治体では、異動で担当者が代わって制作時の意気込みが冷めていたり、ノウハウが十分引き継がれていなかったりした。緊縮財政の中、着ぐるみの「延命」費に頭を抱えるケースもあった。一方で、各種イベントや商品などの企画者側からは「管理団体が分からず、問い合わせに手間取る」などの声があった。

課題解決に向けて発足させたのがエヌキャラネットだ。キャラクターをデータベース化して一元管理し、両者の仲介を円滑化。管理者側にはゆるキャラ活用や著作権管理などを、依頼者側にはニーズにあったキャラクターの紹介や商品化に向けた情報提供を図る。また、新たなゆるキャラ制作に向けた助言や商品の企画も手がける。第1弾として来月、知名度のあるゆるキャラを集めた入浴剤を発売する予定だ。

倉元さんらは「眠っている個性を引き出し、親しみを持ってもらえたら、原点である地域のPRにつながる」と期待を寄せている。詳細は同社ホームページ（http://n-chara.net）。